

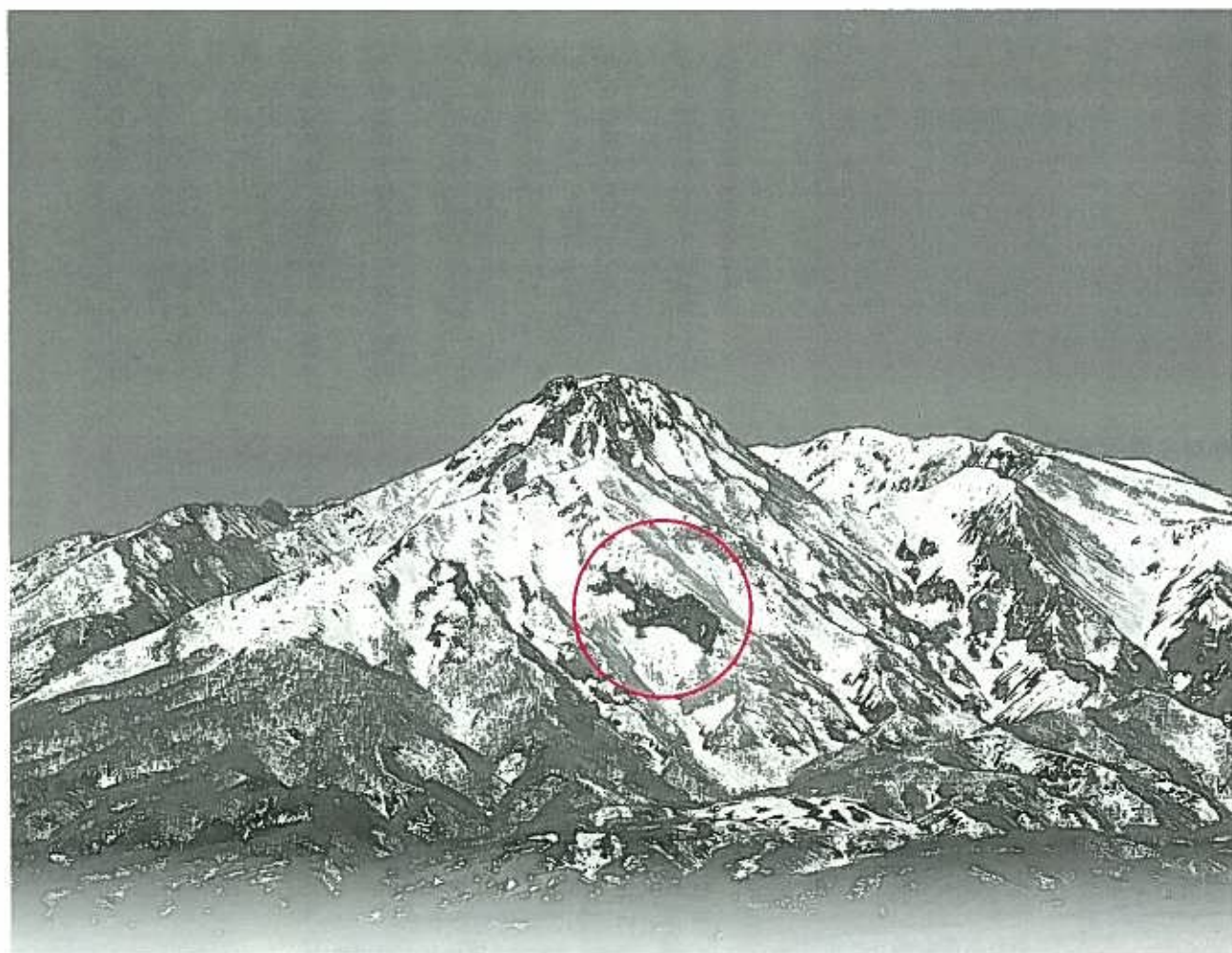
公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



4.5 **特集** ミニトライアスロンの企画と運営

- 2 **トピックス** 平成17年度 新潟県公民館振興市町村長連盟総会開催
- 3 **視点** 公民館に感謝
- 3 **ひろば** 建物の方が大切か
- 6 **実践記録シリーズ** 住民参画をめざす公民館活動
- 7 **サークル交流** ヒップホップ初心者教室 (燕市) / 写団猫の眼 (津南町)
- 7 **素顔拝見** 庭野 敦史さん (柏崎市) / 斉藤 康弘さん (和島村)



妙高山のはね馬

表紙解説 丸印の中で、馬がとびはねているように見えるのがわかりますか。これが妙高山の「はね馬」です。妙高山麓周辺の人々は、このはね馬が見え出すと春の到来を感じ、田植えの準備をしたそうです。今でも妙高市のシンボルとなっています。

平成十七年度新潟県公民館 振興市町村長連盟総会開催

会長に関広一氏(小千谷市長)再任

市町村合併や中越地区の災害復旧関連で遅れておりました標記総会が、去る九月六日(火)、新潟市生涯学習センターを会場に開催された。

来賓には、県教育長様(代理県生涯学習推進課三浦課長様)及び当県公連三保会長をお迎えして定刻に開催。

定例により関広一会長(小千谷市長)の進行により議事に入った。



関会長あいさつ

◆審議内容

第一号議案 平成十六年度会務報告

第二号議案 平成十六年度歳入歳出決算報告について

関連上、併せて提案審議
監査報告 監事伊藤勝美

(村松町長)後、承認された。

第三号議案 役員改選について

事務局から別掲案のとおり提案、承認された。

第四号議案 平成十七年度の重点目標並びに事業計画について

第五号議案 平成十七年度歳入歳出予算について

こちらに関連上併せて提案、承認され

た。

第六号議案 第五十六回新潟県公民館大会の開催について この大会は既に七月十五日(金)、新潟市白根学習館で五百名近い参加の下開催済みであるが、事後承認という形で承認された。

◆審議終了後の公民館活動の紹介

「市町村合併と公民館」と題して、十日町市教育委員会生涯学習課社会教育主事 小川清貴様から約四十分間にわたり事例発表がなされた。この発表は、第四十六回関プロ大会第十四分科会でも好評を博したものである。

◆新潟県公民館振興市町村長連盟 役員名簿

会長	小千谷市長	関 広一
副会長	村上市市長	佐藤 順
副会長	山北町長	大滝 平正
理事	阿賀野市長	本田 富雄
理事	糸魚川市長	米田 徹
理事	川口町長	星野 和久
理事	津南町長	小林三喜男
監事	十日町市長	田口 直人
監事	村松町長	伊藤 勝美

◆自主財源確立のための 調査検討委員名簿 平成17年8月31日現在

(五十音順)

1. 委員(下越)	石田英紀	新潟県市長会事務局長
2. 委員(下越)	佐藤洋子	新潟市公運審委員 民生委員
3. 委員(中越)	○平尾芳典	評議員 見附市中央公民館長
4. 委員(中越)	廣井 一	理事(元市議会議員) 小千谷市公民館長
5. 副委員長(上越)	○山岸洋一	理事 糸魚川市中央公民館長
6. 委員長(中越)	吉岡潤一	副会長 長岡市中央公民館長

(○印 新任)

第1回自主財源確立のための調査検討委員会開催 財源確立のための具体的な手立て～月報自主購読の促進～

(平成17年8月31日(木) 於・新潟市生涯学習センター 5F、会議室)

1. 開会あいさつ 三保会長・吉岡委員長
2. 報告
 - (1) 人事異動に伴う新任委員の紹介
 - (2) 平成17年度県公連市町村負担金及び県町村職員退職手当組合解散に伴う脱退精算負担金についてのその後の動向別紙 平成17年度県公連収入支出予算書及び平成17年度県公連負担金市町村別賦課表(省略)
3. 協議
 - (1) 「自主財源確立のための具体的な手立てについて」
 - ① 収入・支出の見通(2年間)
 - ② 確立のための具体的な手立て
 - ア 大会・月報紙上で協賛広告掲載
 - イ 公民館月報の自主購読の促進
 - ウ その他 経費節減努力の継続
 - (2) 今後の会議予定 12月または1月に開催予定
4. 閉会あいさつ 山岸副委員長

視点

公民館に感謝

新潟市中央公民館 美術サロン 早川 久一



私が公民館を知ったのは、ある年齢になって夜家でテレビ見るのもつまらないので、今迄経験もない油絵グループに入会しての内に、故山田夏男先生の個展が大和にあり水彩画に出会いましたが、その時の感動は今も覚えています。それから三十五年水彩画のみ精進しています。

その内に文化祭委員に推載され、事務局長、委員長を三十年間やってきました。その間、議員が中央公民館に利用を申し込んでも満杯と断られる苦情があるので四年で交替を提案する、との情報を聞き、急ぎ現在の中央公民館使用団体

連絡協議会を結成し議員に申し入れ、提案を断念させてから今の協議会が二十五年続きました。また、その間副会長、会長を勤めました。主な活動は、壁新聞「協議だより」、夕日を詠んで短歌俳句川柳を作る会を十年、民謡流し研修会ETCをやってきましたが、中央公民館が生涯学習センターに移転で、時代感覚も変わって来ているので、一切の役職を辞任してホッとしました。

しかし水彩画教室の指導、中央ハイキング会長、写生会主催等、相変わらず多忙な日々で、これも人生と割り切り、公民館に感謝しています。

HOT NEWS 掲示板

平成17年度第1回編集委員会開催



- 1 日時 平成17年9月21日(水) 15:00~17:00
- 2 会場 新潟市生涯学習センター 404号室
- 3 内容 (1) 「新潟県公民館月報購読ちらし」の作成について
(2) 「新潟県公民館月報」の編集について
(3) 研修資料の作成について
(4) その他

●編集委員名簿●

	氏名	所 属
1	○尾組 晃	新潟県立生涯学習推進センター 学習振興課 副参事
2	磯野 茂	糸魚川市中央公民館 主査
3	○上原 伸一	十日町市中央公民館 館長
4	星 元	川口町公民館 館長
5	○横山 泰巳	五泉市公民館 主査
6	樋口 栄子	新潟市北地区公民館 主幹
7	○北上みどり	新潟市中央公民館 社会教育主事

○印 新編集委員

建物の方が大切か

ひろば

長岡市中央公民館運営委員長 近藤 善彦

公民館関係者のあるところでの話し合い。

「若者がいなくて困る。大体青年層の数がすくなくさがるんだ」と嘆く。もう一人、「いや、うちの町内など、いっぱいいますよ」。

どっちも正しい。

お神輿かつぎ要員は結構いるいる。ただし青年層でなく、盛年層である。お祭り要員の任務が終って、アールコールが彼らを陽気にしていく。むずかしい地域おこしの追求など、どう考えても楽しくなく、気分が重くなる、というのだ。いつか私達は短絡的で、飽食・飽食の空気に馴れきってしまったようだ。

昭和二十一年、文部省が



ら出された「寺中構想」をもういっぺん読んでみた。混乱の敗戦直後、よくそ勇氣を出して書いてくれたものだ。市町村合併が盛んだ。どこの旧市町村へ行っても、公民館や類似施設はデラックスだ。「泥を落して入ってください。よござな、こわすな、いためるな」とある。

豪華な施設では、美しさを保つ方が大切なんだ。どう考えてもさみすぎる。

ンの企画と運営

(3)PR方法

事前に学校に連絡を取り、直接学校に出向き、子どもたちの前でトライアスロンの内容説明をし参加を呼びかけてみた。

「トライアスロンって知ってるかな」と聞いたところ、大半の子が知らないと答えたことから、ただ単に募集要項とポスターを学校長宛に送付するだけではだめなんだと改めて感じた。

大会に興味を持たせ、子どもたちの不安を解消させる手段として、子どもたちを前にして説明するのが最良かと思われる。

「何か質問ありませんか」との問いかけに、

- ①「ぼくはあんまり上手に泳げないんだけど浮き輪を使ってもいいですか」
- ②「泳いでいるときプールの途中で立ちどまっていいですか」
- ③「自転車はマウンテンバイクでもいいですか」
- ④「もし、自転車のチェーンが外れたらどうしたらいいですか」
- ⑤「優勝すると何がもらえますか」
- ⑥「水着のまま走るんですか」

などなど、???な質問が集中した。

多くの質問に、「結構食いつきがいいぞ」と手応えを感じる。

(4)距離は適当か

スイムの25m、50mは適当か。

インターネットで佐渡市のちびっこ・ジュニアトライアスロン大会を検索し参考に使ってもらった。スイムが短い気もしたが、後2種目あることを考えれば妥当のように思われる。

バイク、ランについてもコースどりを考えながらの距離を設定した。



バイクで抜いてやっからな～

4. 最後に

「コース場所を農道としたため応援する場所がない」との保護者らの声を参考に、昨年からはスイムは各小学校のプールを持ち回りとし、バイク、ランとも集落内村道とした。

会場を移動することで大勢の方々にミニトライアスロン大会を知ってもらい、保護者はじめ道路沿線の方々が玄関先でも声援をしてもらえる大会にしたかったからです。

暑い日差しの中沿道の声援を受け、汗を流し足をふらつかせながらも懸命にゴールを目指す姿に感動します。

ゴール後、木陰で休んでいる選手に感想を聞いてみました。

「すごいキツイ。疲れました。」「超、疲れた。去年よりキツイ」「暑くてフラフラ」「距離はもっと長くてもイイよ」などなど。

それでも「来年も出るよ」などと嬉しいことを言ってくれるチビッコアスリートもいました。

低学年は興味を示すが、6年生くらいになると運動能力にかなり個人差が出てくることから限られた子どもたちだけの参加になりやすい。

しかし、トップ争奪、勝利至上のみに関心を持たせることなく、スポーツの楽しみ方を子どもの頃から伝えていきたいものだと思います。

特集

ミニトライアスロン

朝日村教育委員会社会教育課

社会体育係副参事 **富樫 忠彦**

1. はじめに

近年、全国的な傾向として少子高齢化が進み小学校の統廃合が行われている。当村においても、少子化からくる統廃合は避けて通れず、現在5つの小学校に約690名の児童が通学している。

学校内での行事の他、他校の児童と共に活動できるスポーツ少年団には、7団体に約230名の児童が加入し、総合体育館や開放されている小中学校体育館等を利用しながら活動している。

しかしながら、年々子どもたちを取り巻く環境の変化等により体力低下が取りざたされる昨今、体育指導委員会の協力のもと、「無限の可能性を秘めた子どもたちと共に、夢と感動、そして感激を共有しませんか」といううたい文句で、ボランティアの募集と共にミニトライアスロン大会を企画した。今年で3回目となった大会であるが、新規行事を立ち上げ、35名のチビッコアスリートとスタッフ及びボランティアの奮闘により、大会運営できた当初の様子を書いてみた。

2. 大会要項

目的：トライアスロン大会を通して、最後までやりぬく強い心と体力の向上を図り、児童の健全育成に寄与することを目的とする。

主催：朝日村教育委員会

共催：朝日村体育指導委員会・朝日村公民館

後援：青少年育成朝日村民会議

開催場所：朝日きれい館とその周辺

参加資格：村内の小学3年生～6年生の健康な男女

クラス：

	スイム	バイク	ラン	トータル
3・4年生の部	25m	1,500m	1,500m	3,025m
5・6年生の部	50m	1,900m	2,100m	4,050m

参加費：1,000円（保険料含む）

記念品：大会Tシャツ（大会時に着用）胸にオリジナルロゴ入りTシャツ

3. 企画プロセス

(1)コース設定

国道や県道などは交通量も多く、道路横断する場合などは非常に危険が伴う。こため、「朝日きれい館」のプールを使用することにより、バイク、ランについても付近の農道を利用することができた。図面によりコース、距離を設定し実際に現地確認をした。未舗装の砂利道を避け、うまく距離を合わせるのに何度となく付近を周回した。事前に集落の方々に周知し車の乗り入れを規制し、要所要所に監視員を配置した。また、バイクからランに代わる中継地点に給水箇所を設け、ジャグジーにボカリスエットを用意した。

(2)スイムの出発時間

朝日きれい館プールは一般客も利用することから、営業時間前の午前9時スタートとした。プールから上がると着替えもそこそこに走り出すため、正面玄関からの出入りはダメとのことで、裏口を開放してもらい着替え場所を確保した。

水着姿でバイク、ランに移行するのは危険が伴うため、参加賞である大会オリジナルTシャツに着替えさせた。

実践記録

91 シリーズ

第56回新潟県公民館大会
事例発表2



魚沼市生涯学習課 派遣社会教育主事 恩田 知弥

住民参画をめざす公民館活動

1 緒言

①新市における最優先課題とその背景

魚沼市は昨年度(平成16年11月)、北魚沼郡の6ヶ町村が合併して誕生した。合併を1週間後に控えた10月23日(土)に中越大地震に見舞われ、多くの方が被災し、家屋の倒壊や施設の損傷などの甚大な被害を受けた。

その後、19年ぶりの豪雪被害に見舞われたこともあり、魚沼市においては、災害からの復旧・復興に最優先に取り組んでいる。

②生涯学習分野の取り組み

各課から選出された代表によって作られているプロジェクトチームは、現在総合計画の素案を決定している。その中の、教育分野においては、「私たちがつくる新しい学びの町づくり」を基本目標に掲げ、安心して学べる開かれた学校づくりや、楽しく有意義に継続できる生涯学習の環境整備、豊かな芸術文化の振興などについての施策が検討されている。

「楽しく有意義に継続できる生涯学習の環境整備」では、その具体的な施策方針として、子どもからお年寄りまでの社会参加や生涯学習を支援(※1)するとともに、生涯学習の機会を充実(※2)させ、広報紙やホームページなどを活用した学習情報の提供(※3)や図書館・公民館などのネットワーク化(※4)を進めることとしている。図書館や公民館といった既存の社会教育施設をより効率的に、有効に活用することも施策の大きなねらいとして掲げられており、特にこれまでに以上利用者が増加すると考えられる既存施設においては、利用者に利便性を提供できるような方が検討されている。

③公民館活動の重要性と課題

本市において、住民の利便性や自主的な活動を保障するために、公民館活動は重要な割合を占めているといえる。公民館組織は、旧町村単位の各地区公民館ごとに運営委員会を設置し、中央公民館と連携をとりながら市の方針に即して事業を運営している。現在は、中央公民館事業と旧町村単位の公民館事業が平行して実施されている。住民の利便性やサービスの提供は大きな課題であるが、人的・物的な効率性を考え、今後一層の事業推進を行う必要がある。行政主導の事業運営を住民の主体的な事業に高めていく上で、住民の参画は大きなキーワードといえる。公民館事業において、住民の参画をどのように位置付けていくかが魚沼市の事例を紹介する。

2 魚沼市公民館事業

①中央公民館事業

継続事業や合併後の新市の課題をとり上げ再掲に立ち上げた事業から、緒言で述べた重点方針を具現化する方向で取り組まれているものについて、その事業内容と住民の参画スタイルを紹介する。

1) 学びまな市民大学(※1、※2、※3)

①ねらい：余暇を活用して、学ぶ楽しさや味わいながら豊かな生活を送れるようにする。

②具体的な活動：通年9回の講義・実技体験形式の講座

③活動の場：市内の各施設を巡回しながら行い、子どもから高齢者まで幅広く興味・関心をもって参加することができる内容で検討している。

④住民の参画：市民大学運営委員の公募を行い、活動内容を検討するとともに、会の運営にも積極的に関わってもらい、市民で作る講座の意識付けを図る。

⑤参加者には講座ごとにアンケートの記入をお願いし、講座内容や運営を振り返ってもらうとともに、集約した結果や競争事項について参加者に紹介し、紙面を通して会の運営に関わっている意識をもってもらうようにする。

2) 青少年体験活動～魚沼わくわくネイチャー体験クラブ～(※2)

①ねらい：週末や放課後を活用して、青少年および保護者を対象に体験活動を実施し、体験活動の意義とその重要性について周知を図る。

②具体的な活動：週末事業においては、年間20回にわたり、プログラムを実施。青少年の参加を呼びかけ、市内各所で活

動を実施している。

③住民の参画：市魚沼わくわくネイチャー実行委員会が活動内容を企画。魚沼市は活動内容を検討し、実行委員会に対して活動のための支援を行っている。

3) 社会全体で子どもを大きく運動「魚沼市」プラン～魚沼家庭教育実行委員会の立ち上げ～

①ねらい：社会全体で子どもを大きく育てる。趣旨に鑑み、魚沼市の行政、地域、家庭、また各サークル等において家庭教育への関心を高めることができるような事業展開を行う。

②具体的な活動：これまで、各地域で行われていた家庭教育向上のための取り組みについて、魚沼市として方針を定め、ある程度同じ基準で、継続して子どもたちに関わっていくとする活動

③住民の参画：県で行っている「家庭教育サポーター研修」受講生の中から教員を実行委員に委嘱し、魚沼市が抱える家庭教育の課題や解決の方向性について担当者とともに検討を行っている。実行委員は、県で実施されている家庭教育に関わる研修への積極的な参加を願っており、研修で得た情報を市民に提供していく。また、「家庭教育サポーター研修」の受講を市民に呼びかけるとともに、受講者から、研修を生かす場として実行委員会に参画してもらい、活動の輪を広げようとしている。

④地区公民館事業

地区であればこそ可能な連携が見られる。住民参画とともに社会連携によって大きな効果をあげている事業について、大広瀬地区の事業から紹介する。

1) 復活自然体験教室～大広瀬公民館と大広瀬小・中学校の連携～

(旧17年度からは、大広瀬公民館・守門公民館の連携)

①ねらい：復活の自然や歴史、文化にふれ、郷土を大切にしようとする気持ちをもつ。
・小・中・高校生の異学年による集団活動や、大広瀬地区と守門地区の児童・生徒の交流を通してよりよい仲間作りや思いやりのある心をもつことができる。また、おたのしみや喜びを知り、認め合い、今後の日常生活の中で関わりをもつことができる。

・自分たちで計画を立てて実行することとおして、自主性の芽を育てるとともに達成感や満足感を味わう。
・小・中学校教員と公民館職員が連携を行うことで、参加者も多面的に見て活動の充実を図ったり、学校職員にとっての研修の機会としたりする。

②期間：小・中学校の夏期休業期間8月上旬の平日3日間

③活動の成果：小・中学校教員との連携で、集団作りや個々の児童・生徒への対応的関心を行うことができた。
・高校生が支援ボランティアの形で参画することで、自覚をもって積極的に活動する姿が見られる。各地区における「子ども会」的な活動においても、中高生が役割を持ち、事業に参画できるような体制作りを少しずつ呼びかけていきたい。

・小学生は、中学生への指導をとおして、自己の行動規律を作ったり、自主的に活動したりする姿が見られた。※17年度は、新たに異なる地区の子どもの交流という視点が事業の中に入ってくる。ただ、一緒に遊ぶだけでなく子どもたちの段階で学ぶことのできる地域性や文化の違いをうまく表出することで、意義のある交流活動にもっていくことをねらっている。

2) 高齢者講座における小学校との交流(※1)～大広瀬公民館と大広瀬小・中学校の連携～

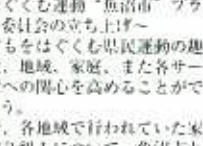
①ねらい：高齢者が、子どもたちとの交流をとおして、楽しく生き甲斐をもって活動する喜びを感じることができるようにする。

・子どもたちが高齢者との交流をとおして、高齢者に対する親しみやいたわりの気持ちをもつことができるようにする。

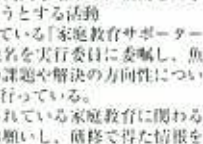
②期日：1年2回(屋外・屋内スポーツ交流1回ずつ)



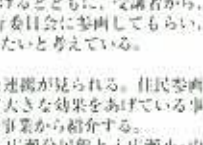
復活自然体験教室の様子



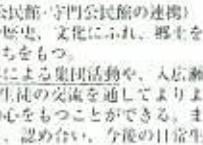
高齢者講座と小学校との交流の様子



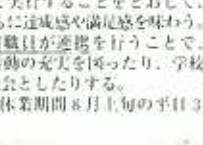
公民館活動の様子



公民館活動の様子



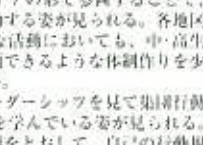
公民館活動の様子



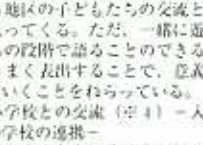
公民館活動の様子



公民館活動の様子



公民館活動の様子



公民館活動の様子



公民館活動の様子

④活動の成果：小学生は、交流をとおして、これまであまりかかわりなかった他地域の高齢者とかかわること

で、地域全体に目が行ってきた。ふれあいタイムにおける「高齢者の昔話」から、自分のよく知らない少し昔の時代のことについて興味深そうに聞く姿が見られた。また、学校での社会科学習の際に、ここでつないだ高齢者とのつながりを新りに、昔の米作りの様子について紙面で聞くという発展的な姿も見られた。

・高齢者は、小学生との話から、「あなたの住んでいる地域には○○さんがいてこんな人だ」という情報を提供する姿が見られた。また、本事業で行った「フロッカーリング」の地域の大会への参加意欲を見せるなど、小学生とのかかわりは高齢者にとって大きな喜びをもたらす事業であるとともに、活動意欲や好奇心を刺激するものであるとあらためて感じた。

3) 高齢者講座における中学校との交流

～大広瀬公民館と大広瀬中学校の連携～

①ねらい：高齢者が、中学校の子どもたちとの交流をとおして、楽しく生き甲斐をもって活動する喜びを感じることができるようにする。

・高齢者が、コンピュータを操作する活動を体験することで、達成感や喜びを味わうことができるようにする。

・中学生の子どもたちが高齢者との交流をとおして高齢者に対する親しみやいたわりの気持ちをもつことができるようにする。

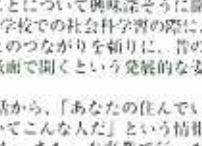
②期日：1月～5月を展示する喜びを得るため、文化祭出品をならみ10月に実施

(※会場：中学校コンピュータ室)

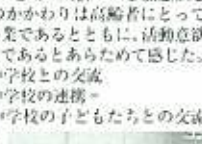
③活動の成果：高齢者は、パソコンに関心を示さない方が多い。募集は常に定員を下回り、様々な方法で参加者を募り、実施している。(※定員は生徒数)実際にやってみると、感じていたほど強くはなく、思っていた以上の作品が完成することに喜びや驚きを感じる高齢者が多い。人生経験豊富な高齢者にとって、触れる機会が少なかったであろうパソコンに触れることで新しい視点ができることは大変有意義なことであり、大きな喜びであるようである。中学生にとっては、高齢者がパソコンの使い方を教え、作品を作るができるようになるためには、的確な言葉で順を追って説明しなくてはならないため、自己の学習を1歩に反復するよい機会となる。また、中学生は時間的な問題等からも、公民館事業への参加が少ないため、このような機会をとおして公民館事業に参加することで、参加意欲を高めたり、参画意欲をもつてくれたりすれば喜ばしいことである。



公民館活動の様子



公民館活動の様子



公民館活動の様子



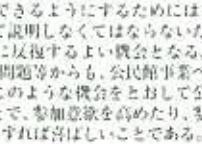
公民館活動の様子



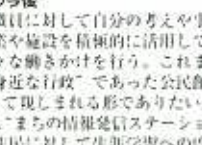
公民館活動の様子



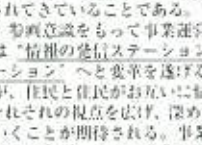
公民館活動の様子



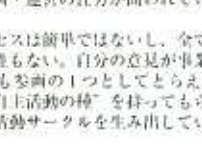
公民館活動の様子



公民館活動の様子



公民館活動の様子



公民館活動の様子

ダンスで気持ち良い汗を ヒップホップ初心者教室

毎週水曜日午後七時～九時
ヒップホップダンスに興味を
持った高校生・社会人と幅広
いメンバーが汗を流し、楽し
くダンスを練習しています。
今年には市民祭など幾つかの



行事に参加、出演することが
でき、同じくダンスを頑張っ
ている近郊の方々との交流
や、普段ヒップホップダンス
というものに馴染みの無い
方々にも見てもらえる機会を
得ることができました。
こうした日頃の練習の成果
を発表する場を得たことによ

り、目標を持ち楽しく練習し
て行けるようになりました。

まだまだメンバーを募集し
ておりますので、是非一緒に
ヒップホップダンスでリズム
にノッて、気持ち良く汗を流
してみませんか？

燕市・
ダンスサークルACDP
藤田 協 記



写真好き集団

写団猫の眼

写真好き人間が集まって立
ち上げたサークルです。
日夜、向上心に燃えて作品
つくり励んでいます。

作品発表の場は年に一度の
グループ写真展ですが、最近
では個人のホームページによ



る作品発表にも力が入ってい
て、なかには全国誌に数度取
り上げられた会員もいます。

毎月の例会では作品を見せ
合い、批評し合っています。
写真の方向がメンバーそれぞ
れ違うことから撮影行動を共
にすることはありませんが、
それだけにお互いの作品に対
する批評は冷静かつ的確にな
ることが多いようです。

自己満足に終わらないよう
に、年に一度は講師を招いて
講習していただくことにして
います。

津南町・写団猫の眼
福原 昇 記

和島村公民館 斉藤康弘さんは、1年目ながら
も太極拳教室、手話・歌声教室などの新規教室を
立ち上げ、10月に行われる生涯学習フェスティ
バルに向け連日連夜、生れたばかりの子ども
の寝顔しか見れない生活を送っています。

小学生対象の少年教室では、「ナイスガイ斉藤」
と呼ばれ、みんなからの信頼を
集め、元気を与えているナイス
ガイです。

(和島村公民館 小黒信明 記)

和島村公民館
斉藤康弘さん



昨年4月柏崎公民館に新潟県から派遣された庭野
さんを紹介し、公民館では家庭教育事業、寿大
学事業、地区館事業の助言、公民館主事部会を担
当するなど、幅広い年代の方々を対象に獅子奮迅の活
躍の毎日です。寿大学事業では、持ち前の当たりの
良さから年上の(特に)女性からの人気は絶大なも
のがあります。

端正な容姿に秘めたチャレ
ンジ精神は旺盛で、ちまたで静か

柏崎公民館
主査 庭野 敦史さん



素顔 拝見

なブームを呼んでいる「ウクレレ」の同好会を職場
の仲間と結成し腕を磨いています。僅か一年余りの
公民館勤務ですが、生涯学習の素晴らしさを身も
もって体感中です。

今後の夢は、日ごろ家庭教育事業で身に付けたノ
ウハウを我が子のために生かしていくことかな?..
と筆者は思っています。

(柏崎公民館 木村 克己 記)

紙面充実のための改訂案を

月報編集委を中心に、7面のサークル交流欄
を活動PR及び活動支援内容にしてはどうか。

また、素顔拝見欄は、公民館職員だけではなく
市町村の有名人、ユニークな活動をしている
人、(名物人物)に広げてはどうか。

等検討をしていく予定です。皆様からのご意
見も募集中です。

この冊子は「指定管理者制度」導入以降、多くの全国公民館関係者の問い合わせに際して、多く編集・刊行されたものです。初版は、平成十六年十月、今回の改訂版は、文部科学省の最近動向、「公民館の民間委託」その他の資料も追加、若干修正の上、平成十七年一月に刊行されたものです。



内容は、○座談会「民間委託を考える」、○市民参加型の「新しい公営」をめざす、○指定管理者制度と地方公共団体の出資

法人、○文部科学省の方針を語る、○民間教育機関からみた公民館の現状と可能性、○指定管理者制度Q&A、○資料等から構成されております。
B5版、百十二頁
問合せ、入手希望連絡先
(社)全国公民館連合会
電話 ○三三五〇二一九六六六
FAX ○三三五〇二一三四八一

恵贈資料紹介

(社)全国公民館連合会

Net work ネットワーク

「平成17年度中越地区公民館長・主事・公運審等研修会」開催案内

- 趣旨 (省略)
- 主題 「今、公民館ができること ~少子高齢化のなかで~」
- 主催 中越地区公民館連絡協議会
- 共催 新潟県公民館連合会、柏崎市教育委員会、刈羽村教育委員会
- 主管 柏崎公民館、刈羽村公民館
- 期日 平成17年11月17日 (木)
- 会場 柏崎市市民プラザ (柏崎市東本町一丁目3-24 電話0257-20-7500)
- 日程
 - 受付 12:30~13:00
 - 開会 13:00
主催者挨拶 中越地区公民館連絡協議会会長 吉岡 潤一
来賓挨拶 中越教育事務所社会教育課長 小林 民弥 様
歓迎挨拶 柏崎市教育長 小林 和徳
 - 講演 13:15~14:45
演題 「ジャーナリストの視点から見た公民館の役割(仮)」を予定
講師 新潟日報編集局報道第二部長兼編集委員 高橋 正秀 様
 - 休憩 14:45~15:00
 - 事例発表 15:00~16:00
※事例発表者は未定(柏崎市・刈羽村から3名)
 - 閉会 16:00
閉会挨拶 刈羽村教育長 小林 忠博
- 参加費 1人500円(資料代)
当日、市町村単位で受付に納入してください。
- 申込方法・問い合わせ
平成17年11月4日(金)までに、別紙申込書によりお申し込みください。
FAXでも郵送でもかまいません。
柏崎公民館 電話:0257-20-7500 FAX:0257-22-2637
〒945-0051 柏崎市東本町1-3-24市民プラザ内

evening information

平成17年11月の
催物ご案内

あ と が き
市町村合併がらみで、遅れておりました県公振連総会、九月六日無事終了、ほとと一安堵しております。
◇第一回自主財源確立検討委

並びに第一回月報編集委も開催され、委員会活動も活発化しております。
◇十一月は研修シーズン
全国大会、中公連の研修会が予定どおり開催されております。(鈴木 記)

プラネタリウムのご利用案内

観覧時間 午前9時30分~午後4時30分(入館は午後4時まで)
休 日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)
このほか、設備点検整備のための休館日があります。

プラネタリウム観覧開始時刻

平日(祝~前)	11:15	13:40	14:45		
土 曜	11:15	13:40	14:45		
日 曜・祝 日	10:15	11:15	13:20	14:20	15:20

- ・入場は観覧開始時刻の15分前からです。
- ・観覧席の発光は観覧開始時刻の5分前からです。
- ・1回の観覧時間は約40分です。
- ・定員は210名です。
- ・観覧席の入場券は不要です。
- ・場内の飲食、飲煙、フラッシュ撮影、携帯電話の使用はご遠慮ください。
- ・観覧席が満席の場合は、観覧開始時刻の15分前までにお申し込みください。
- ・11月29日~12月2日は観覧開始時刻の変更のためプラネタリウム観覧ができません。

区 分	観 覧 料		
	大人	小・中・学生	大人 (20人以上)
入 場 料	500円	100円	450円
入場+プラネタリウム観覧	750円	200円	650円
定期入場券(6ヶ月間)	2,200円	400円	200円

- ・幼児及び障害者手帳をお持ちの方は無料です。
- ・プラネタリウムを観覧される場合は入場料が必要です。
- ・定期入場券でプラネタリウムを観覧できる場合は、別に大人200円、小・中学生100円の観覧料が必要です。

交 通

- バス
 - ・新潟駅南口から立寄駅まで。
 - ・朝日通 - 15分乗車 (約15分) 下車すぐ
 - ・新潟駅南口から立寄駅まで。
 - ・朝日通 - 15分乗車 (約15分) 下車すぐ
- 乗車
 - ・新潟バス(1) 区間乗車券: 新潟駅南口 - 立寄駅 3分、立寄駅 - 新潟駅南口 3分
 - ・乗車券新着中央インテックから約5分



新潟県立自然科学館 新潟市中央区 1-1-1
TEL:025-228-2222 FAX:025-228-2222
http://www.niigata-science-museum.jp

2005年 プラネタリウム秋番組 No.92



観覧期間 2005年9月10日(土)~11月27日(日)

新潟県立自然科学館
NIIGATA SCIENCE MUSEUM